

2010年8月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

月平均500hPa 高度場を見ると、広く正偏差が分布し、ロシア西部、日本付近、北太平洋東部、北極海のカナダ側では顕著な正偏差となった。ユーラシア大陸では、亜熱帯ジェット気流は平年より北側に位置した。また、寒帯前線ジェット気流は平年より強かった。北太平洋高気圧は全般に平年より強く、特に北太平洋東部や日本付近で顕著だった。対流圏下層の気温は、ロシア西部～中東や日本付近などで顕著な高温偏差となった。北半球中高緯度で平均した対流圏の気温は、1979年以降の8月で最も高い値となった。

熱帯の対流活動は、インドネシア付近、南シナ海、ベンガル湾の南部、アラビア海で活発、太平洋西部～日付変更線付近で不活発だった。また、カリブ海から中米付近で活発となった。太平洋では下層の東風偏差、上層の西風偏差が先月に引き続いて強く、南方振動指数(SOI)は+1.9だった。赤道季節内振動(MJO)に伴い、上層の発散偏差の中心が大西洋から東進し、インド洋を経て太平洋に達した。対流圏上層のチベット高気圧は平年より強かった。また、太平洋西部では低気圧性循環偏差が、太平洋東部から大西洋

にかけては高気圧性循環偏差が分布した。

世界の天候

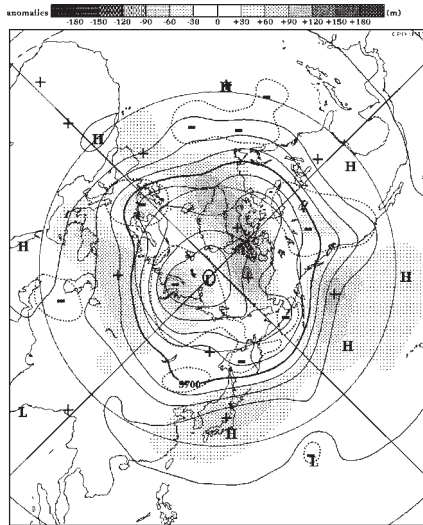
2010年8月の世界の月平均気温平年差は+0.33°Cで、1891年の統計開始以来、4番目に高い値となった。8月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.62°C/100年である。主な異常天候発生域は次のとおり。

- ロシア西部周辺では、暖かい高気圧に覆われ、異常高温・異常少雨となった。
- アイスランドからメキシコにかけて、広く異常高温となった。
- 南米南部では、南から寒気が入ったため、異常低温となった。

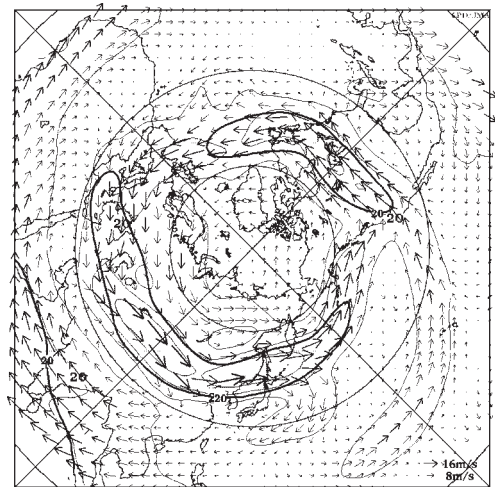
(気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課)

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。

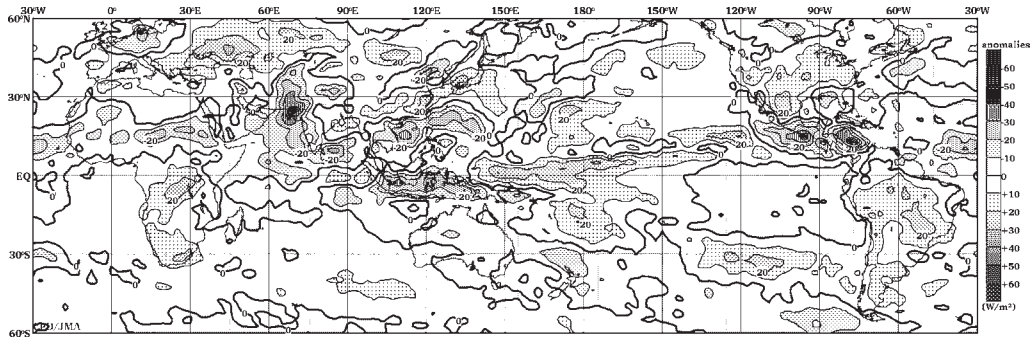
<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



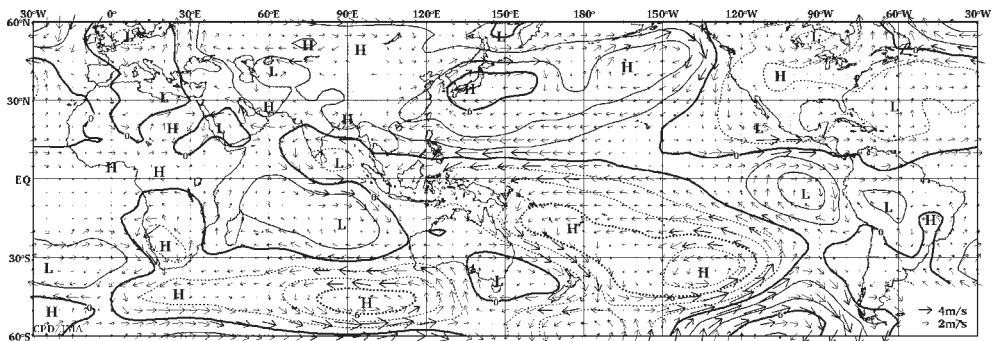
2010年8月の北半球月平均500hPa 高度および平年偏差
等値線間隔は60m。陰影は平年偏差。平年値は1979～2004年のデータから作成。



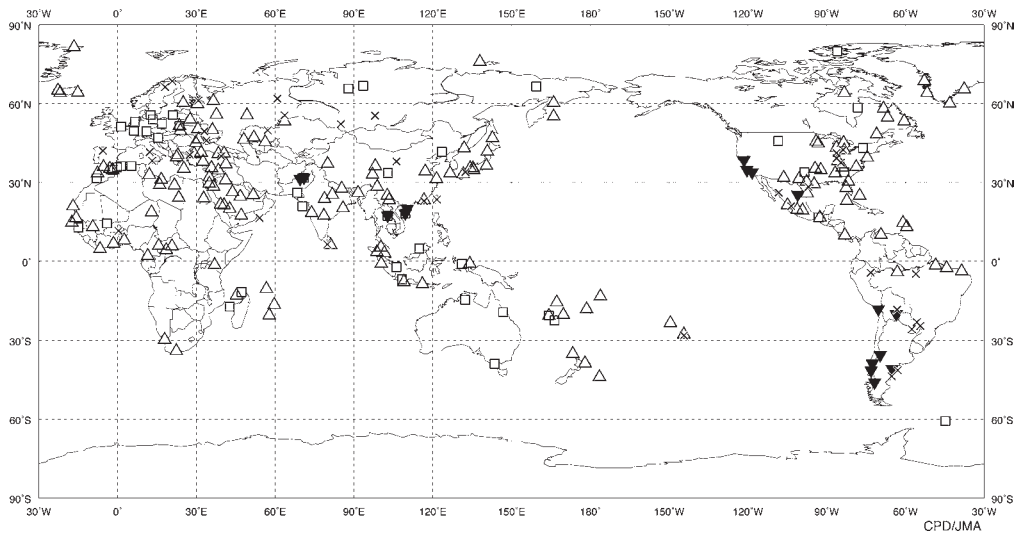
2010年8月の北半球月平均200hPa 風速および風ベクトル
等値線間隔は10m/s。陰影部は20m/s以上。太実線で囲まれた領域は平年の20m/s以上の領域を示す。平年値は1979～2004年のデータから作成。



2010年8月の月平均外向き長波放射量平年偏差
 等値線間隔は10W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。元データはNOAA。平年値は1979~2004年のデータから作成。



2010年8月の月平均850hPa 流線関数平年偏差および風平年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{m}^2/\text{s}$ 。平年値は1979~2004年のデータから作成。



2010年8月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍以上、異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0。